

## 令和7年度事業の実施状況について

(令和8年2月1日現在の数値)

センター名	中津川市地域包括支援センター			
担当地域	中津川西・南・東 地区			
人口	25,495人			
高齢者数	65歳以上	7,855人	(内75歳以上)	4,809人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	30.8%	75歳以上高齢者割合	18.9%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	1,139人 (13人)	要支援1、要支援2	391人 (5人)
	事業対象者数	16人		
介護認定率	19.5%			

## 重点的に取り組んだ事業

現状	H27年度より「元気アップ教室」(運動、栄養、口腔の内容を学ぶ介護予防教室)を実施してきたが、参加者の減少や、全地区送迎可としていたが、会場から遠い地区の方は参加が難しいという現状があったため、R5年度より「出張版！元気アップ教室」へ変更。我々が地域へ出向くことで、希望された地区の高齢者に対し、運動教室を通して介護予防の普及啓発を行うことができ、また地域の方が集まりやすい地域の集会所等を行うことにより、教室終了後においても、地域の通いの場等で運動が定着できるように行っている。 R5年度2教室開催(神坂・蛭川) R6年度2教室開催(福岡・かおれ) 4か所中3か所自主サロン発足(1か所は教室開催前よりサロン化されている)
課題	現在事業の委託先が1か所であり、年間の教室開催可能数が少ないため、多くの地区へ対応することができていない。
目標 (目指す姿)	高齢者の要介護状態への進行を予防するために、教室終了後においても個人や集団において運動が継続して行うことができるための介護予防の普及と、地域で介護予防ができる集いの場の発展。
事業名	出張版！元気アップ教室
取り組み内容	【対象地区】 苗木地区(本町)、西地区(大峡)、山口地区 【内容・方法】 ○運動、口腔講話(1回)、栄養講話(1～2回)のプログラム 運動指導士による体操や運動を毎回取り入れ、フレイル予防のための栄養講話や、口腔機能についても集団指導で実施 ○各地区の生活支援コーディネーターと連携し、自主化への支援を行う

成果など	<b>【教室参加人数】</b>						
	地区	実人数					
	苗木地区（本町）	15人					
	山口地区	27人					
	西地区（大峡）	20人					
	<b>【アンケート結果（教室最終日）】Q1介護予防の必要性について理解できたか</b>						
	地区	回答者人数	①理解できた	②まあ理解できた	③あまり理解できなかった	④理解できなかった	①または②と回答した割合
	苗木地区（本町）	14人	10人	4人	0人	0人	100%
	山口地区	21人	14人	7人	0人	0人	100%
	西地区（大峡）	14人	9人	4人	1人	0人	92.8%
<p>アンケート評価にて、教室終了後、「介護予防の必要性についての理解ができたか」への問いに対し、全地区9割以上の方が「理解できた」または「まあ理解できた」と回答している。また、教室終了3か月後アンケート（苗木地区のみ）も行ったところ、回答された12名すべての方が、運動を「継続」されており、「毎日」から「週1回」の頻度で続けられている。（※山口、西地区については3月実施予定）</p> <p><b>【教室最終日アンケート（感想等）一部抜粋】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の事、栄養の摂り方がかなり明確に理解できた。</li> <li>・目、口腔の大切さ、歯磨きの仕方、選び方、減塩の大切さなど色々と勉強になった。</li> <li>・自分では体調は万全と思っていたが、年齢を重ねるにつれてそれなりに努力をすることが重要と思った。</li> </ul> <p>3地区とも参加者からの意見や、生活支援コーディネーターの協力もありサロンが発足された。教室参加者以外の地域の方にも案内され、地域内の通いの場と発展している。今後も引き続き、地域住民が介護予防に対して主体的に意識をしてもらえるように、周知をしていきたいと考えている。</p>							

### 地域課題への取り組み

地域課題	認知症みまりのわSOSネットワーク事業の周知
抽出場面	地域ケアネットワーク会議などで、認知症の方が行方不明になったことによる捜索が多いため心配との声が聞かれる。
取り組み・成果	「どこシル伝言板」などの認知症みまりのわSOSネットワーク事業を広報や高齢・障がい福祉フェアなどで周知を行った。また、他課の協力も得て、がん検診・乳幼児健診でのリーフレットの配布や図書館での掲示、市役所・市民病院・健康福祉会館・北恵那バスのモニターを活用し周知活動に取り組んだ。

\*認知症みまりのわSOSネットワーク事業とは、外出時に行方不明となるおそれのある認知症の方が、事前に情報を登録することで早期に捜索・保護につなげる事業。この事業に登録された方は、市が契約する「認知症高齢者等個人賠償責任保険」への加入、「どこシル伝言板」への登録ができる。

\*どこシル伝言板とは、行方不明となった場合、見つけた方がスマートフォンで衣服等についている二次元コードを読み取ると、すぐに家族と連絡がとれ、迅速な保護につなげるシステム。

センター名	中津川市瀬戸の里地域包括支援センター			
担当地域	苗木地区			
人口	5,750人			
高齢者数	65歳以上	1,870人	(内75歳以上)	1,120人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	32.5%	75歳以上高齢者割合	19.5%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	293人 (2人)	要支援1、要支援2	62人 (1人)
	事業対象者数	6人		
介護認定率	19.1%			

### 重点的に取り組んだ事業

現状	<p>苗木地区では、高齢化の進行に伴い、住民の皆さんの交流の機会が少しずつ減り、ひとり暮らしの方や介護をしているご家族が不安を感じる場面もみられるようになってきた。そうした中、地域の皆さんや関係機関の方々が協力し、地域包括ケアの考え方のもと、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを目指し、「健康福祉のつどい」を3年前から開催。</p> <p>昨年度は、医師会の会長にご協力いただき、地域の現状を踏まえた大変わかりやすい講演を実施。参加された方々からも「とても勉強になった」とたくさんの好評の声があり、住民の健康への関心が高まる良い機会となった。今年度も、引き続き地域の皆さんの関心に寄り添った内容を企画し、さらに交流と学びの場を広げていく重要性を感じている。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士のつながりや交流の機会が以前より減少しており、気軽に集まれる場づくりの工夫が求められている。</li> <li>・関係機関や関係者同士のネットワークづくりも、さらに顔の見える関係を広げていくことが今後の課題となっている。</li> <li>・医療や介護に関する正しい情報を、わかりやすく住民の皆さんに届ける方法を工夫し、安心して暮らせる地域づくりを目指していきたい。</li> </ul>
目標 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士や関係機関が顔の見える関係を築き、助け合い・支え合う地域づくりを進める。</li> <li>・高齢者や家族、支援者が気軽に参加し、交流し、楽しめる場を提供する。</li> <li>・医療・介護の知識を共有し、住民の安心と理解を深める。</li> </ul>
事業名	地域のネットワーク(健康福祉のつどい)
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康チェック、相談コーナーや体験・参加型の企画内容</li> <li>・本人や家族、住民、支援者の交流の場となれるネットワークづくりを促進</li> <li>・医療・介護に関する正しい情報を住民へ届け、健康への関心を高め、介護予防・重症化予防を進めるとともに、住民の安心感と支援者の学びの場とするため、医療や健康に関する講演会の開催</li> </ul>

<p>成果など</p>	<p>苗木まちづくり推進協議会と地区社協、地域包括との共催で今年度で4回目となる苗木地区健康福祉のつどいを実施。今年度は200名の参加者となった。</p> <p>各コーナーの受付など地域住民に主体的に関わっていただくことで地域のネットワークづくりに繋がっていることを実感。また、昨年度のアンケート結果からも健康に関する講演会をしてほしいとの要望が多く、昨年に引き続き城山病院院長の赤座先生に「認知症境界のお話」をしていただき、参加者からは「認知症の母への関わり方の参考にしたい」「減塩・難聴予防が大切とわかった」「認知症の講話は大変良かった」「続けて聞きたい」などの声があり、医療や介護に関する情報発信の大切さを感じた。</p> <p>毎年実施することで健康への意識づけにも繋がっており、気軽に参加できる内容を今後も検討していく必要を感じている。年代別では60代、70代の参加者が多かったことから若いうちからの介護予防啓発の機会として続けていく必要を感じている。</p>	<p><b>印象に残った体験</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>体験内容</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤座先生の講演</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>介護用品の展示・体験</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>健康・福祉マルシェ</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>椅子ヨガ</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>味噌汁の試飲</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>各種測定</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>保健師による血圧測定</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>多肉形米玉づくり</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参加者年代別割合</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>～10代</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>20～30代</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>40～50代</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>70代</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>80代</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>90代</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※アンケート結果より抜粋</p>	体験内容	割合 (%)	赤座先生の講演	45%	介護用品の展示・体験	2%	健康・福祉マルシェ	10%	椅子ヨガ	10%	味噌汁の試飲	15%	各種測定	2%	保健師による血圧測定	8%	多肉形米玉づくり	0%	年代	割合 (%)	～10代	3%	20～30代	8%	40～50代	25%	60代	40%	70代	17%	80代	0%	90代	0%	不明	5%
体験内容	割合 (%)																																					
赤座先生の講演	45%																																					
介護用品の展示・体験	2%																																					
健康・福祉マルシェ	10%																																					
椅子ヨガ	10%																																					
味噌汁の試飲	15%																																					
各種測定	2%																																					
保健師による血圧測定	8%																																					
多肉形米玉づくり	0%																																					
年代	割合 (%)																																					
～10代	3%																																					
20～30代	8%																																					
40～50代	25%																																					
60代	40%																																					
70代	17%																																					
80代	0%																																					
90代	0%																																					
不明	5%																																					

<p>現状</p>	<p>苗木地区における認知症高齢者数は270人であり、そのうち見守りの必要な認知症高齢者も137人とされている。これは地区人口に対して7%の割合を占めており、今後も増加が予想される状況にある。また、認知症の方の思いを聴く場や、地域住民の理解促進の機会が少ない現状が課題となっている。</p>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方が地域で安心して暮らすための環境整備が不十分。</li> <li>・認知症の方ご本人の思いを直接聴く場が少ない。</li> <li>・見守り体制の構築と地域住民の理解促進が必要。</li> </ul>
<p>目標 (目指す姿)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方の思いを聴き、地域の課題や支援方法を本人の声をもとに整理する。</li> <li>・地域住民への理解促進を図り、見守り体制の充実を目指す。</li> </ul>
<p>事業名</p>	<p>本人ミーティング</p>
<p>取り組み内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅のケアマネ、民生委員、生活支援コーディネーターと連携し、対象者の選定を行う</li> <li>・認知症のご本人を対象としたミーティングの開催(年2回)</li> <li>・本人ミーティングで出た声をまとめ、支援計画や地域の見守り体制づくりに反映</li> <li>・参加者の交流の場、認知症カフェなどの活用も検討</li> </ul>
<p>成果など</p>	<p>年間2回実施予定の本人ミーティングのうち、第1回目を実施した。初回開催であることから、認知症当事者が安心して参加できるよう、介護者同席で行った。</p> <p>当事者からは、物忘れが進行する中で感じる不安や戸惑いについて率直な発言があり、別の当事者からは実体験に基づいた助言が共有されるなど、当事者同士の共感と支え合いが見られた。</p> <p>本人が「支援される側」ととどまらず、語り手・助言者として参加する姿が確認でき、本人ミーティングの有効性を確認する機会となった。</p> <p>本取り組みは、認知症になっても本人の思いを尊重した支援を進めるための重要な機会であり、今後継続して取り組みを行う意義を感じる機会となった。</p>

## 地域課題への取り組み

地域課題	社会資源をどう活用していくか
抽出場面	地域ケア個別会議にて、「うまく社会資源の活用ができていないのと、情報が少ない」との声があがった。
取り組み・成果	ケアマネジャーの学習会で、地域内の社会資源について生活支援コーディネーター(SC)に情報提供していただき、今後の活用と顔の見える関係を構築した。

\*生活支援コーディネーター(SC)は、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能(主に資源開発やネットワーク構築の機能)を担っている。

センター名	中津川市ひだまり苑地域包括支援センター			
担当地域	坂本地区			
人口	13,145人			
高齢者数	65歳以上	3,639人	(内75歳以上)	2,231人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	27.7%	75歳以上高齢者割合	17.0%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	503人 (8人)	要支援1、要支援2	151人 (3人)
	事業対象者数	14人		
介護認定率	18.1%			

### 重点的に取り組んだ事業

現状	地域包括ケアネットワーク会議において、認知症をテーマに昨年度は延べ3回の会議を行った。認知症への理解を広く周知するためのチラシづくりと、子どもやその親など認知症に関心が薄い世代への働きかけへの必要性について話し合われている。
課題	介護保険の認定状況から見守りの必要な認知症の方が増加している。後期高齢者や独居及び高齢世帯の増加があるため地域で支えていく必要がある。地域包括ケアネットワーク会議を活かして、認知症についての理解と自分ごととして考える大切さを周知していく必要がある。
目標 (目指す姿)	坂本地区高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように継続的な支援体制を構築していく。
事業名	坂本地区地域包括ネットワーク会議
取り組み内容	①各団体の個々の取り組みの情報共有、意見交換を通じて、会全体で取り組むことができるような取り組みを検討し、実施するところまでつなげる。 ②各団体、地域住民に向けて、認知症当事者、その家族の理解が深まるような、啓発活動(認知症サポーター講座、出前講座等)を行っていく。 ③小学校に向けての認知症サポーター講座の開催を検討する。 ④年度内で取り組めた成果を市民に伝える場を検討する。
成果など	①ネットワーク会議 2回開催。認知症啓発の場を3月の坂本公民館祭りに決定。内容としては、子どもの感性でできた作品を掲示し、その家族も巻き込む流れを作ることとする。具体的には、坂本小学校にネットワーク会議会長とともに訪問し、作品を提供してもらうように協力要請を行った。 ②認知症サポーター講座(小学校を除く) 2回(7/9、11/12) 延べ 23人 認知症啓発の出前講座等 5回 延べ 96人 ③坂本小学校にて認知症サポーター講座の実施(12/2 12/3) 6年生4クラス125人。 ネットワーク会議各委員の参加・見学も要請(4人参加あり)。 ④認知症サポーター養成講座を受けた児童作成の標語を坂本公民館祭り(3/14～17)に掲示予定 *当年度は、ネットワーク会議としては初めて結果として残せるものとなる予定。

現状	認知症高齢者の方が増加しているが当事者の思いを聴く機会がなかった。
課題	当事者の方の思いを聴き、地域での暮らしやすさに活かしていく必要がある。
目標 (目指す姿)	認知症の人が暮らしやすいまちづくり、認知症の人も参加できる機会を設ける。
事業名	本人ミーティング
取り組み内容	・認知症ご本人同士が話をする機会を設ける。家族が居ない場での当事者同士の話からご本人の本音の引き出し、当事者から考える住みやすい町を一緒に考える。

成果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ミーティング 2回 9人参加（認知症当事者は延べ5人参加）</li> <li>・介護者家族会と同日開催</li> <li>・坂本小学校での認サポ講座の認知症当事者の方の講義 12/2 12/3</li> <li>・地区ケアマネ連絡会での認知症当事者の方の講演 12/10</li> <li>・ケアマネジャー参加18人</li> </ul>
------	---

#### 地域課題への取り組み

地域課題	地域の中での認知症の理解
抽出場面	金融機関から認知症の方への窓口での対応について相談があった
取り組み・成果	金融機関の窓口の方に認知症の方への対応方法を伝えると共に、多くの職員に知ってもらうために認知症サポーター養成講座を金融機関に案内をした。

センター名	中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター			
担当地域	落合地区・神坂地区・瀬戸区(板橋を除く)			
人口	4,772人			
高齢者数	65歳以上	1,914	(内75歳以上)	1,157人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	40.1%	75歳以上高齢者割合	24.2%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	264人 (10人)	要支援1、要支援2	70人 (1人)
	事業対象者数	4人		
介護認定率	17.1%			

### 重点的に取り組んだ事業

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年12月に地域包括支援センター・在宅介護支援センターで中津川市版ACP「私のこころづもり」を広く地域住民へ啓発するためのツールとして作成した。今年度は、この作成したツールを知っていただくための活動が必要だと感じている。</li> <li>・自分の将来について考えたり家族等に自分の思いを伝えることが大切だと理解していてもどのように伝えたらいいのかわからない。</li> <li>※「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」とは、将来のために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、繰り返し話し合い、共有するための取り組みです。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACPを知らない人が多い状況があるのではないか</li> <li>・中津川市版ACP「私のこころづもり」を作成したツールは市のホームページに掲載してはあるが啓発として十分ではない。地域へ広く周知していく活動が必要と感じ、ACPの意識調査を含め、周知活動をしていく必要があるのではないか。</li> </ul>
目標 (目指す姿)	中津川市版ACP「私のこころづもり」を通じて、ACPの取り組みについて知ってもらう機会を作る。将来について考えることで各々の目標ができ、介護予防等に取り組む姿勢につながる。
事業名	「中津川市版ACP」の啓発及びACPの住民への意識調査
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握で訪問する独居、高齢世帯及び出前講座や介護予防教室等で簡単なアンケートを実施し、担当地域住民のACPの浸透ぐあいが数値で把握することができる。同時に、中津川市版ACP「私のこころづもり」の配布、啓発を行うことができる。</li> <li>・機関紙などでSNSを通じて情報提供を行い、啓発活動を行っていく。</li> <li>・アンケートの結果をもとに、更に中津川市版ACP「私のこころづもり」を活用しやすいツールへと改善したり情報発信の工夫を今後行っていく。</li> </ul>
成果など	<p>&lt;訪問・出前講座等で76人よりアンケートを実施 (R7.12末時点で集計)&gt;          ※アンケートは落合地区、神坂地区、瀬戸区を対象に実施          ☆ACP「人生会議」を知っていますか？          →知っている(7%) 聞いたことある(20%) 知らない(72%)          ☆中津川市版ACP「私のこころづもり」を知っていますか？          →知っている(13%) 知らない(87%)          ☆将来のために自分が望む医療やケアについて前もって考えたり、家族等と話し合いたいと思いますか          →すでに話をしている(20%) 話し合いたいと思う(72%) まだ必要ない(5%)          ※「すでに話をしている」を年齢別に見てみると、75歳以上が80%と高いことが分かった。          ※「話し合いたいと思う」と思っている方も多い。来年度は、「話し合える」1つのツールとして中津川市版ACP「私のこころづもり」を75歳以上の方をメインのターゲットにして実態把握訪問や出前講座等で周知を図っていきたい。          ※また、SNSや機関紙、イベント等を通じて、中津川市版ACP「私のこころづもり」を幅広い年齢の方にも目にしてもらう、手に取ってもらう機会を作っていく、「知らない」→「聞いたことある・見たことある」「知っている」を増やしていけると良い。</p>

## 地域課題への取り組み

地域課題	社会資源へのつなげ方
抽出場面	地域ケア個別会議で地域で使えるインフォーマルなサービスがわかりにくいという課題が出された。
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域資源マップを民生委員、ケアマネジャー、SC、地区社協、地域ボランティア組織に配布。また、令和7年10月にはSCを中心に地域資源マップの見直しを行った。</li><li>・地域の方にはゆうらく苑包括と地区のSCの連絡先を載せた「困った時の相談窓口」チラシの全戸配布を行った。</li></ul>

センター名	中津川市シクラメン地域包括支援センター			
担当地域	阿木地域			
人口	1,891人			
高齢者数	65歳以上	850人	(内75歳以上)	498人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	44.9%	75歳以上高齢者割合	26.3%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	122人 (2人)	要支援1、要支援2	24人 (0人)
	事業対象者数	15人		
介護認定率	18.7%			

### 重点的に取り組んだ事業

現状	高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしく暮らせる地域づくりを進めている中、市内で3番目に高い高齢化率は今後も上昇が予想され、車の運転免許を返納する高齢者の方の増加が見込まれる。														
課題	車の運転免許を返納後、買い物、受診など生活の継続や社会参加の維持に困る高齢者の方が多くなる。														
目標 (目指す姿)	高齢者の方が身近で買い物ができる様にしていくと同時に、社会資源の継続の為に地域でできる協力について考えることができる。														
事業名	買い物に関するアンケート調査の実施														
取り組み内容	(1)阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称 ごちゃませ会議)として、令和4年度から構成団体である区長会と民間企業(スーパーの経営元)との買い物に関する意見交換を定期的に行う。 (2)阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称 ごちゃませ会議)令和6年度全体会議で、社会資源に対し地域でできる協力についてグループワークを実施。 (3)令和7年4月にアンケート用紙の他インターネット回答を用いて、買い物等について10代から75歳以上と多世代の意見を聞くことができる様にアンケートを実施。 (4)今後、アンケートの分析と地域への報告を行う。 (5)地域でできる取り組みを実施する。														
成果など	<p>【アンケート調査】</p> <p>【1】調査結果</p> <table border="1"> <tr> <td>回答者数</td> <td>270件(10代～80代と多世代)</td> </tr> <tr> <td>性別年代</td> <td>70,80代以上の女性からの回答が22.2%と最も高く、次いで70,80代以上の男性(18.5%)、50,60代男性(18.1%)と続いた</td> </tr> <tr> <td>家族構成</td> <td>親と同居している50,60代からの回答が15.6%と最も高く、次いで70,80代以上の夫婦2人暮らし(15.2%)と続いた。70,80代以上の1人暮らしの方からの回答も一定数あった(8.1%)。</td> </tr> <tr> <td>普段の買い物</td> <td>阿木地内の店は16.7%が70,80代以上の方。</td> </tr> <tr> <td>自分としてできそうなこと</td> <td>「〇回に1回は地元スーパーを利用する意識をもつ」(41%)が最も高く、次いで「全部そろえようと思わずコンビニ的な利用をする」(28.1%)が続いた。</td> </tr> <tr> <td>地域としてできそうなこと</td> <td>「会議やイベント時にお茶やお弁当を発注」(25.9%)が最も高かった。</td> </tr> <tr> <td>その他意見</td> <td>・自分が運転できなくなったら、地元スーパーがないと困る。 ・災害時などは食品などの生命線になる大事な店なので、コンビニの様にでも何とか営業を続けてほしい。</td> </tr> </table> <p>【2】報告:8月に全戸へ調査結果を配布 【3】取り組み:イベントや会議の際の飲み物や弁当を発注、フォトコンテストの開催、意見交換の開催など</p>	回答者数	270件(10代～80代と多世代)	性別年代	70,80代以上の女性からの回答が22.2%と最も高く、次いで70,80代以上の男性(18.5%)、50,60代男性(18.1%)と続いた	家族構成	親と同居している50,60代からの回答が15.6%と最も高く、次いで70,80代以上の夫婦2人暮らし(15.2%)と続いた。70,80代以上の1人暮らしの方からの回答も一定数あった(8.1%)。	普段の買い物	阿木地内の店は16.7%が70,80代以上の方。	自分としてできそうなこと	「〇回に1回は地元スーパーを利用する意識をもつ」(41%)が最も高く、次いで「全部そろえようと思わずコンビニ的な利用をする」(28.1%)が続いた。	地域としてできそうなこと	「会議やイベント時にお茶やお弁当を発注」(25.9%)が最も高かった。	その他意見	・自分が運転できなくなったら、地元スーパーがないと困る。 ・災害時などは食品などの生命線になる大事な店なので、コンビニの様にでも何とか営業を続けてほしい。
回答者数	270件(10代～80代と多世代)														
性別年代	70,80代以上の女性からの回答が22.2%と最も高く、次いで70,80代以上の男性(18.5%)、50,60代男性(18.1%)と続いた														
家族構成	親と同居している50,60代からの回答が15.6%と最も高く、次いで70,80代以上の夫婦2人暮らし(15.2%)と続いた。70,80代以上の1人暮らしの方からの回答も一定数あった(8.1%)。														
普段の買い物	阿木地内の店は16.7%が70,80代以上の方。														
自分としてできそうなこと	「〇回に1回は地元スーパーを利用する意識をもつ」(41%)が最も高く、次いで「全部そろえようと思わずコンビニ的な利用をする」(28.1%)が続いた。														
地域としてできそうなこと	「会議やイベント時にお茶やお弁当を発注」(25.9%)が最も高かった。														
その他意見	・自分が運転できなくなったら、地元スーパーがないと困る。 ・災害時などは食品などの生命線になる大事な店なので、コンビニの様にでも何とか営業を続けてほしい。														

## 地域課題への取り組み

地域課題	地域における人生会議(ACP)の普及啓発
抽出場面	R3年実施したアンケート調査では、介護が必要になった場合でも自宅で生活したい、人生の最期を自宅で迎えたい方が多く、在宅生活の継続を望まれている方が多い。
取り組み・成果	西消防署と共に①地域で人生会議、DNARの講座を開催した。②在宅医とも連携をし、職域(主に在宅サービス職員)向けにDNAR勉強会を開催した(東濃初)。

\*DNARとは、患者本人または患者の意思を推定できる者の意思決定に沿い、心停止の際に心肺蘇生法(CPR)を行わないこと。

センター名	中津川市北部地域包括支援センター			
担当地域	地区			
人口	21,345人			
高齢者数	65歳以上	8,716人	(内75歳以上)	5,137人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	40.8%	75歳以上高齢者割合	24.1%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	1,146人(19人)	要支援1、要支援2	237人(6人)
	事業対象者数	20人		
介護認定率	15.8%			

### 重点的に取り組んだ事業

現状	担当地区に坂下高校(福祉科)があるが交流ができていない。
課題	福祉関係の仕事を目指す学生と地域の高齢者が直接関わる事が少なく強みを生かす事ができてない。
目標 (目指す姿)	包括で行う事業に坂下高校の学生に参加してもらい地域の高齢者との交流や地域の課題など一緒に考えて地域づくりに取り組める。福祉の人材育成に少しでも貢献できるよう努める。
事業名	坂下高校と地域に暮らす高齢者との交流の促進
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂下高校の先生と互いの目的を共有し年度計画を行い実行していく。</li> <li>坂下高校での認知症サポーター養成講座を通じ顔の見える関係をつくる。</li> <li>やさか地区での介護者のつどいに参加してもらい介護者家族との交流。</li> <li>坂下診療所と共同で行う認知症カフェに参加してもらい医療関係とも繋がりをもつ。</li> <li>高齢・障がい福祉フェアに参加してもらう。</li> <li>介護予防教室を坂下高校で開催し内容を一緒に検討し実施する。</li> </ul>
成果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>6/19 坂下高校で認知症サポーター養成講座を開催 2、3年生 9名参加</li> <li>10/20 坂下高校で介護者のつどいを開催 一般参加者 5名 1、3年生 9名参加</li> <li>11/25 坂下診療所できまぐれカフェ(認カフェ)開催 一般参加者 10名 2年生 6名参加</li> <li>1/26 坂下高校で介護予防教室を開催 一般参加者 12名 1、2、3年生 17名参加</li> </ul> <p>参加した地域の方からは、「一生懸命な高校生の姿に心強く感じた。」「若いのに感心した」「高校に初めて来たが高校生の活動を見る事ができてよかった」「今後も続けてもらいたい」などの声が聞かれた。</p> <p>高校生からは、「授業では習う事ができない体験ができた」「介護者の方の思いを聞く事ができてよかった。」「実習では得られない体験ができた」「介護状態にならないようにする取り組みも大切だと感じた」と介護予防にも関心を持ってもらう事ができた。</p> <p>地域の方、高校生からも好感触な声が聞かれた。</p> <p>又、事業の中で高校生に内容を考えてもらい実践してもらう事もできた。</p>

※ 介護認定者数は、申請後審査が下りていない方がいるため暫定値  
( )は認定者のうち介護保険第2号被保険者(40歳～64歳)の人数

### 地域課題への取り組み

地域課題	交流機会の減少
抽出場面	新型コロナ収束後もサロンが再開されず、出ていく場所がないとの声が聞かれた。サロンを再開しようとしても中心となり牽引する方が不在でできない状況がある。
取り組み・成果	包括・SCで協力し、当該地区で介護予防教室を2～3年行いサロンの担い手を育成。地域で続けたいとの声があがりサロンが再開された。

【多くの地域で共通する課題】

地域課題	相談先の周知が不十分
抽出場面	ネットワーク会議などで、高齢者の相談先がわからず困ったとの声が聞かれる。
取り組み・成果	広報やホームページ、SNS、イベント時のチラシ配布、民生委員会などの各種団体への説明などを行い～高齢者の身近な相談窓口～として地域包括支援センターの普及を行っている。
	令和5年度の介護予防・日常生活支援ニーズ調査の一般高齢者調査結果では、「名前だけは知っている」52.9%、「名前も役割も知っている」26.4%、「全く知らない」17.4%であり、令和2年度の調査と比較し「名前だけは知っている」3.3ポイント、「名前も役割も知っている」1.7ポイント高くなっている。第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に向けて現在調査集計中。

地域課題	認知症に対する理解
抽出場面	地域の方から認知症の方が一人で地域で暮らすことに対して不安の声が聞かれる。
取り組み・成果	令和6年に共生社会の実現を推進するための認知症基本法が施行されたこともあり、認知症サポーター養成講座等で認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」の紹介や、認知症の方の当事者の声を聴く「本人ミーティング」を開催している。また、認知症講演会『「認知症とともに生きるあたらしい地域へ～認知症世界の歩き方」認知症のある方の視点で本人の思いや共に暮らすことについて考えよう』を2月8日に開催した。

地域課題	地域の見守り・つながりの希薄化
抽出場面	地域ケア個別会議で、介護保険サービスの利用が始まると地域のサロンの利用をしなくなるなど、地域との関わりが希薄になるとの課題があがった。
取り組み・成果	現在は個別のケースについて、SCとも協力し参加できる場を探すなど、地域とのつながりが途切れない環境づくりに取り組んでいる。なお、地域のつながり自体の機能も低下しているため、地域の方の理解を得られるような働きかけが必要と思われる。